

【めむろ未来ミーティング日程4】

令和8年1月14日(水)

13:30～15:00

■参加者 10人

■芽室町 町長、副町長、教育長、
魅力創造課参事、農林課長、
環境土木課参事、政策推進課長

■記録 広報広聴係

■対応・検討が必要な事項

- ①総合体育館アリーナに冷房設備を(生涯学習課)
- ②農業試験場周辺の雑木やガガイモの対応を(環境土木課・農林課)

- 1 開会
- 2 町長挨拶
- 3 町からの説明事項

資料1 芽室公園 Park-PFI

資料2 都市公園ストック再編計画について

資料3 新嵐山スカイパークについて

- 4 意見交換

(1)資料1・2についての意見交換

【参加者】

モンベルは現在道内に8店舗ほどあるかと思うが、それに加わるという理解でよいか。どのような形態なのか詳細を知りたい。

【町長】

札幌近郊には一定の店舗があり、そこを除くと東川町、小清水町、南富良野町があり、今後は留萌でもスタートする予定である。十勝釧路根室などの道東地域にはなく、芽室町で初めて出店する形になる。道東に何店舗も出店することは考えにくく、芽室町に出店する店舗は、地域内で「1地域1店舗」のような性格を持つ拠点になり得ると見ている。十勝エリアとして商圈が成り立つかどうかはモンベル側

の判断でもあり、交渉を重ねた結果、誘致できる方向になったが、出店の価値や集客力は大きいと考えている。店舗規模については、南富良野店程度の規模を想定しており、小清水店や東川店より大きい店舗になる見込みである。また直営店であるため、モンベルの会員制度等も当町の店舗で利用可能となる。出店規模や開業時期についてはモンベルと十分協議しており、令和10年の3～4月頃のオープンを目指して準備を進めている。

なお、モンベルありきではないかという意見があることは承知しているが、集客力とブランドの位置付けが大きいことは事実であり、今回の芽室公園つなぐパートナーズも、モンベル出店を核に集客を図り、その上で飲食等の展開につなげる考え方である。これは地域の経済循環にも資するものと考えている。

今後の課題としては、まちなか再生といかに連携させるかである。試算では、計画施設に年間約10万人の来訪が見込まれており、その人流をまちなかへどう波及させるかが重要である。また、新嵐山との連携も視野に入れている。ビジターセンターを整備し、日高山脈へ入る登山客等も含めた利用が想定されるため、新嵐山や日高山脈との連携も目論んでいる。計画としては、モンベルショップとビジターセンターを必須機能として提案してもらい、その他に小売や飲食を一部付加する形である。皆さんの理解を得ながら、開始後は粛々と進めていきたい。

財政面では、イニシャルコストに民間資金を活用できるなど、町にとって有利な制度設計となっているため、今回その制度を活用したものである。

【参加者】

モンベルショップありきという話が出たが、モンベルショップを核とする構想について、開業当初は集客が見込めると考える。南富良野店は道の駅併設であり、夏場は一定の集客がある。一方で、冬場は飲食店が営業していないことも多く、モンベル店内も休日であっても人が少ない状況を見たことがある。芽室公園に店舗ができれば、当初は「新規開業効果」で集客のメリットが出ると思うが、アウトドア用品

は頻繁に買うものではないため、集客力に関して、数年は良くても、その後は落ちていく可能性が高いと個人的には見ている。モンベルの集客力に過度に依存すると、将来的に見通しより来訪者が減る懸念がある。年間10万人という試算についても、毎年恒常的に10万人が来るとは限らないと考える。開業当初は予想を上回る年があるかもしれないが、年を追うごとに減少する可能性もある。道の駅ではない以上、モンベルができたことだけで継続的に人を呼べるのかは慎重に見るべきである。

ビジターセンターについても、センターは各地にあるが、オフシーズンには来訪者が少ない施設が多い。登山客の誘致についても、施設が登山口の直下にあるわけではない中で、どの程度利用が見込めるのかを冷静に見積もる必要がある。事業を進めること自体に反対ではないが、数年先だけでなく10年、20年先も見据え、必要になった際に速やかに方向転換できるような考え方を持って進めてほしい。

また、登山に関しても、モンベル商品はきっかけとしては有効だとしても、本格的な登山者はもう少し高品質な装備を持っている場合が多いという見方もある。そうしたところも踏まえて進めてほしい。

【町長】

ご心配、ご懸念も含めた意見、ありがたく受け止める。ただ、まだ実施していないため、今後の状況について確約はできないが、集客の考え方として、芽室公園は噴水等により、これまでも一定の集客力があつたと認識している。加えて、芽室公園の再整備も検討しており、例えば現在は奥まった場所にある古い遊具を、より分かりやすい場所へ移設するなど、子どもが遊びやすい環境を整えたい。また、提案内容の中には屋内遊戯施設を盛り込んでいて、ファミリー層が来訪する要素となり、かつ通年利用が見込める。集客の核がモンベルであることは事実だが、屋内遊戯施設により通年で人が集まる施設にしたい。屋内遊戯施設は有料化を想定していて、私も南幌町のはれっぱという屋内遊戯施設を視察してきたが、それと同程度の規模の屋内遊戯施設を、モ

ンベルショップと隣接・連携する形で整備したい考えである。夏は噴水や公園遊び、暑い日や雨天時は屋内遊戯施設という使い分けにより集客を図りたい。さらに、多少だが小売店や商業機能も一部導入し、複合的な機能で集客したい。周辺は総合体育館や野球場などスポーツ施設が集積するエリアであるため、スポーツ関連の機能追加も検討している。例えば小中学生向けの3x3バスケットコート等について、提案や要望もあるため、整備できないか考えている。市街地にこうした施設がなく、東工業団地にあるコートまで自転車で移動している実態も聞いている。冬季の利用制約はあるが、屋内遊戯施設等と組み合わせ、複合的に魅力を高めたい。

冬場の集客低下については、他地域の事例も含め認識している。そのため、屋内遊戯施設などで補いながら、通年で採算を確保できる形に持っていきたい。屋内遊戯施設は近隣でもイトーヨーカドーの跡にできたり音更町でも整備の動きがあつたり、乱立傾向はあるものの、まだ需要はあると見ている。

現時点の計画には明示していないが、道の駅ではないが、物産販売等を行う用地の可能性も想定している。まずは当初計画の範囲で開始するが、来訪者が増え、より大きな経済効果が見込める状況になれば、空きスペースを活用した追加の商業機能、長屋のような店舗の整備も検討の余地がある。ただし費用面も絡むため、当面は現計画で進める。以上のような想定のもと、町として事業をスタートさせている。いただいた懸念は理解しており、今後は来場者の状況等を丁寧に確認しながら、長期的な展望も含めて検討していきたい。

【参加者】

経済波及効果が7億円という試算だが、どのような内訳なのか詳細を知りたい。

【魅力創造課参事】

経済波及効果の試算は、いくつかの要素で成り立っている。まず、町にどれくらい新たに人が来るか、その来訪者が宿泊するかしらないかによっても影響は大きく変わる。現時点の試算は、あくまで今の芽

室町に来訪者が年間 10 万人増えたという想定で算出している。また、モンベル出店をきっかけに新たな起業が生まれるといった効果が東川町等であったが、現時点では見通せないため、今回の試算には織り込んでいない。

この前提のもとで、要素は大きく 3 つ程度ある。1 つ目は直接効果であり、モンベルや関連施設ができたことにより町に直接的に落ちるお金である。モンベル単体だけでなく、来訪のついでに町内の他店舗での購入も含め、約 5 億円程度が落ちると見込んでいる。その次が、雇用・所得の効果で、町内事業者の売上が増えることで、追加投資や増員につながり、新たな雇用が生まれる。これによる効果が約 1 億円強ある。これらが地域内で消費や取引として回っていくことで、最終的に経済波及効果として約 7 億円程度になるという計算である。7 億円がそのまま町に降ってくるという意味ではなく、複数の流れでお金が循環した結果の相対としての数字である。税についても、所得税など町に入らないものはあるが、総合的に見て 7 億円の経済波及効果があるというシミュレーションである。

【参加者】

宿泊するかしないかでも変わるという話だが、昨年、温浴施設や宿泊施設の話もあったかと思うが、今はどう考えているのか。

【町長】

宿泊施設や温浴施設の課題については、現時点でも重要な課題として認識しており、思いは変わっていないが、町が公費でホテルを建設したり、公設で温浴施設のようなものを整備したりすることは、現時点では考えていない。水面下ではあるが、民間資本を活用して施設を整備してもらえないか、民間事業者の意向把握や調査を進めている。ただし、相手方の事情もあり、また建物の所有者の意向も関わるため、調整には時間を要している。

現段階では、具体的に皆さんへ説明できる状況には至っていないが、宿泊・温浴は要望も多い事項であり、引き続き課題として検討していきたい。

【参加者】

今回公募で何社が手を挙げてきたのか。

【町長】

一社である。

【参加者】

道の駅についてお伺いしたいが、可能性等はどのように考えているか。

【町長】

道の駅については、さまざまな会場で話題に上がる。私自身も十勝管内の道の駅の収支状況を調べた。道の駅は制度上、基本的に通年で運営し、トイレ等を 24 時間開放する必要がある。北海道の道の駅は夏場の収入が中心になりやすい一方、冬場は売上が伸びにくく、維持管理費や人件費とのバランスが課題になりやすい。決算上は黒字に見える施設もあるが、実態としては町からの支援、補助や持ち出しが入っており、結果として成り立っているケースが多い。十勝管内の道の駅を一通り調べた結果としても、その傾向が見られる。具体名の言及は控えるが、自治体の持ち出しが少なく運営できている例は限られているという認識である。

もちろん、お金の話だけで判断するわけではないが、町として継続的に支援を続けられるかという点は懸念材料である。将来的に道の駅を絶対にやらないという趣旨ではなく、発想としては持ち続けたいものの、現時点のスタート段階では道の駅化は考えていない。まずは来場者の動向等を見ながら、必要に応じて検討することになると考えている。

また、町内には愛菜屋もあり、機能が競合する可能性も論点である。愛菜屋の 2 号店化や移転といった意見もあるが、これは農協側の判断事項であり、現時点で町がどうこう言う立場にはないと考えている。

以上のような事情や分析を踏まえ、道の駅については現時点では検討していないという状況である。

【参加者】

せっかく新たな施設整備が進み、モンベル等も含めて周辺が拠点化していくので、隣接する総合体育館の環境面も合わせて考えてほしい。

私の娘がバレーボールをしており、地区予選などが5月下旬頃に行われるが、その時期でも①体育館内はかなり暑い。現状、体育館には十分な空調が整備されておらず、選手が熱中症等で倒れるリスクもあり、応援する側も、夢中になっている分、暑さに気づかず体調を崩す可能性がある。高齢者も孫の応援で多く来場するため、なおさら安全面が心配である。
せめて2階ホール等、一部でも涼しくできるように空調整備や扇風機の増設等が必要だと感じている。

せっかく近くにモンベルができ、いい場所だと言われるような環境が整っても、体育館が暑いと言われてしまうのは残念である。

本事業で経済効果が生まれるのであれば、その効果も活用しながら、スポーツ大会の誘致にも力を入れ、体育施設の環境改善にも取り組んでほしい。現在は大会等が道央へ流れてしまう面もあると感じており、野球なども含め、町としてスポーツ分野での競技力向上や発掘・育成、オリンピック選手が出るように頑張ってもらいたい。

【町長】

体育館は空間が広いので、空調整備は難易度も費用も高い。今回、暖房は整備したが、冷房となると総合体育館に限らず学校体育館も同様である。近年は夏の暑さが厳しく、体育の授業自体が難しくなるほどであり、これは課題だと考えている。

【参加者】

今までソフトボールや野球の練習をしていた場所にモンベルが建設されることになるが、代替施設はあるのか。また、夜や夕方の練習には夜間照明がないと難しいので、確保してもらいたい。

もう一つは、モンベルが出来てまちなかの飲食店を利用してもらうという考えはわかるが、今でも駐車場が足りていないので、駐車場の整備をしていた

だけると、ゆっくり利用してもらえないのではないかなと思う。

【町長】

ソフトボール場に関しては、これまで当該施設を使用してきた団体には説明しており、全団体ではないが、概ね理解は得られている。

昼間の利用については、健康プラザ南側にもバックネットがあるため、代替的な利用は可能である。確約はできないが、ベンチの整備など環境改善も検討したい。サッカー等の利用や、子どもたちの野球の練習利用への影響はあるが、チームとしては一定の理解を得ている。

また、町民ソフトボール大会などでナイターを利用している実態があり、その扱いは今後の検討課題である。照明設備は老朽化しており、継続するならばLED化等が必要になり、移設は難しいと考えている。費用対効果の観点から、夜間利用をどこまで確保するのかも含め、慎重に考える必要がある。私自身も野球経験があり、練習環境としての確保が難しくなる点は理解している。

現在、設計はこれからであるが、駐車場をどこまで必要とするか、練習スペースとして球場側に一部残すことが可能か等も含め、検討の余地がある。約束はできないものの、例えば複数組がキャッチボールできる程度のスペースを残すといった考え方もあり得る。いただいた意見は貴重なものとして受け止める。

市街地の駐車場不足についても課題認識は共有している。駅前に駐車しても回遊しにくい実情があり、飲食店等が並ぶエリアに駐車場があるとよいという指摘はそのとおりだと考える。

ただし、現状では土地の所有者は町ではなく民間であり、町が主導して整備できるかは不透明である。町としては、各店舗や住宅の今後の意向を把握するアンケート等も実施しており、空き家・空き地が生じた際にマッチングを進めてきたが、駐車場整備は依然として難しい課題である。市街地再編の中では、建物を奥に下げて前面を駐車場とするセットバック的な整備の事例もあるが、指摘のエリアは路面店

が多く、駐車場ニーズは高いと見ている。駐車場の確保も含め、課題として認識しており、今後検討すべき事項である。

(2)資料3についての意見交換

【参加者】

リフトの件だが、先日、とあるスキー場でベルトコンベアの事故があったが、外国製のものだったとのことであり、そのような技術的なものは国産のもので整備してもらいたい。

もう一点は、犬を飼っていてドックランによく行くが、綺麗に芝が整備されている所が意外と少ないので、きちんと整備してほしい。

【町長】

小樽で起きた事故は本当に痛ましく、安全性については強い問題意識を持っている。

今も、例えばCコースを降りてからA・B線までが約200mあり、子どもがその距離を滑って移動できるのかといった懸念がある。第2リフトは既に使用できない状況であるため、代替としてエスカレーターのような設備を設けられないかという議論もあった。しかし、エスカレーターもリフトと同様に許認可のハードルが高く、加えて費用面や夏場の扱いも含めて検討すると、斜面に新たな設備を設けることは現実的に難しい。

また、リフトを2本、あるいは3本と複数整備する案も考え得るが、仮に全て更新すると、1本あたり約4億5000万円、合計で約9億円規模となり、費用負担が大きい。こうした条件を総合的に考え、最終的にはリフトは1本で運用するという結論に至った。利用者からは、Bコースから降りた場合に遠くなるといった意見もあるが、あの規模の山で採算を取るためには、複数リフトを維持することは難しいのが実態である。さらに、現行のA・B線を継続して維持する場合でも、今後10年で約6億円の整備費が必要になるという見立てもある。であれば、約4億5000万円で1本を更新した方が合理的ではないかという整理になった。なお、既存リフトはすぐに解体できるものでもないため、費用面の事情もあり、

動かさない形で残す可能性がある。これが現在の整理である。

町としては経費だけを優先するのではなく、何より安全性を高めた運営が不可欠である。安全性の高い事業者・設備でなければ、町の責任問題にもなり得る。リフト製造・施工に関わる企業は多くなく、外国製は安いと言われることもあるが、安全第一の考えのもと、慎重に選定していきたい。

また、ドックランについては、経営破綻前から良かったという声もある。ただし当時は無料であり、今後の運用で有料化することには申し訳なきもある。しかし、一定の料金をいただくことで、整備・維持管理の責任を明確にし、利用者側も料金を払っているのだから整備してほしいと言える関係を作れる。人手の問題等はあるが、管理運営会社とも協議しながら進めたい。負担はお願いすることになるかもしれないが、高額にはしない想定である。

現在のドックランもつくり自体は悪くないため、既存資源をうまく活用し、可能であれば早めにプレオープン的な形で動かせないかも検討している。

【参加者】

リフトの夏季営業については、集客の目処はあるのか。資源として頂上の展望台だけというのでは人が集まるとは思えない。本州でやっているようにゲレンデに花を植えるだとか、集客アイテムが必要だと思うが、何か考えているのか。

【町長】

景色だけで集客するのは厳しい面があると認識しているが、現状、頂上の展望台自体もかなり老朽化しているため、まずは展望台を含めた改修・整備を検討している。また、頂上には水回りが十分に整っていないため、飲食やお茶を提供するような機能が現状では難しい。この点は課題であり、今後どう整備していくかを考えている。例えばキッチンカーの導入なども含め、一定のサービス提供によって集客につなげられないかという議論をしている。ただし、これらの整備だけで大きく人が来るのかと問われると、厳しい部分があることも理解している。現

時点で考えているのは、展望台の整備とキッチンカー等の導入による集客であるが、確かに弱いという自覚はある。過去にはジップラインなどの案も出た。

一方で、リフトを更新するのであれば、冬だけの利用にとどめるのではなく、通年で活用しなければ意味が薄く、経済的にも成り立ちにくいという感覚を持っている。そのため通年利用の方向性は重視したい。

現在、林道を通って頂上に上がっているが、林道は管理用道路であり、仮に下から整備するとすると、5年から10年ほど前の試算で約3億円かかると言われていた。費用面の制約も踏まえつつ、現実的な通年活用策を検討していく考えである。

林道を整備していくとなると、現在は資材費等も上がっているため、当時の試算より大幅に増え、倍近い規模、例えば5億円程度になる可能性もある。

一方で、仮に道路整備を進めるのであれば、夏場は駐車場に駐車してもらい、リフトで山頂へ上がり、帰りもリフトで下りてもらおうといった運用ができる。これは夏の利用における一つの面白いアイテムになり得るといった感覚はある。

ただし、指摘のとおり、通年で運用するだけでは不十分であり、採算が取れなければ意味がない。したがって、魅力づくりはさらに考える必要がある。

夏の活用については、これまで放牧地として利用していたエリアを、草刈り等の管理をしっかり行い、夏場も使えるように整備していく考えである。そこで、例えばマウンテンバイクで斜面を下るといったアクティビティなど、ソフト面の活用策は幅広く検討したい。

そのため、行政側で一方向的に決めるだけでなく、「こういう斜面があるが、どう活用できるか」という形で外部にもPRし、民間や関係者から提案を募ることも必要だと考えている。いずれにせよ、採算性も含めて、しっかり検討しながら進めていきたい。

【参加者】

2点ある。1点目として、斜面の夏季利用のアイデアとして、そり滑りのようなものや、肥料袋等を活用した簡易的なもの考えられると思った。

2点目として、キャンプ場のサイト利用に関する確認である。近年、車中泊の利用者が増えており、いわゆる「RVパーク」のような形態も増えている。調べたところ、RVパークは温浴施設等が併設され快適に過ごせることが要素として挙げられていて、本件はそれには該当しないと思うが、車中泊利用者が求めるものとしては電源ニーズがあると考えており、そのような方には電源付きオートサイトを利用してもらうという考えでよいか。

【魅力創造課参事】

オートサイトは、もともと平成28年までは反対側で実施していたが、現在はその場所が利用できないため、新たに整備するもの。基本的には車で乗り入れてキャンプしてもらおう想定であり、利用者ニーズを踏まえ、電源は用意する想定としているが、テントを張らずに車内で過ごしたい利用者についても、サイト利用料を支払って利用する形であれば、使い方は利用者の裁量であり、車中泊的な利用も可能だと考えている。

【参加者】

リフトを架け替えた場合、初心者はどうするのか。上まで行ってしまうと初心者は危険ではないか。

2点目は、リフトの架け替えに伴う事業費・維持管理費についてである。リフトの工事ができる業者が少なく選択肢が限られることは理解しているが、全く選べないわけではない。先ほどの説明では、建て替え後に旧設備を解体するといった趣旨の話もあったが、もし既存設備が活用可能であれば、活用した方が安くなる可能性がある。また、維持管理についても、業者任せにするだけでなく、過去には夕張で夏場に従業員が部品交換や修繕交換等を行っていたと聞く。こうしたことによって維持管理費の圧縮ができる可能性があるので、業者への丸投げにせず、更新や新設部分は別としても、維持管理の体制や費用圧縮の余地について、もう少しきちんと調べた上で少しでも安くなるよう進めてはどうか。

【魅力創造課参事】

新たなリフトは展望台まで上がる計画であるため、展望台からCコースへ移動して滑り出すまでの動線整備が必要だと考えており、一定の整備費を見込んでいる。現状のままでは展望台からCコースへスムーズに入れられないため、勾配を緩やかにするなどして、特に初心者でも無理なく移動して滑り出せるように整備する必要がある。この点はまだ詳細設計段階で詰めきれていない部分もあるが、初心者が移動しやすい動線を優先して整備する方針で検討している。

また、リフトの維持管理に関しては、国内メーカーは非常に限られており、実質的に3社程度である。そのため、仮に入札を行ったとしても、多数の事業者が参加できる性質のものではないが、現在のリフトについても、部品はメーカーから取り寄せつつ、現地で対応できるものはできるだけ現場スタッフで行い、メーカー担当者を都度呼ばなくても済むよう、日常点検や通常メンテナンスは実施している。今後、仮にリフトを更新したとしても、維持管理をメーカーへ丸投げすることは現実的ではなく、何かあってもメーカーが1週間来られないので復旧できないといった事態は避けなければならないので、今後も従来同様、通常のメンテナンスは現場スタッフが担える体制を維持し、引き続き対応していきたい。

【参加者】

大倉山で斜面を活用してレッドブル400というイベントをやっているのですが、新嵐山は400mには及ばないが、スポーツメーカー等に協賛してもらって夏場開催しても面白いのではないかと考えています。

【町長】

イベントは、現状ぼつぼつとしか実施できていない状況である。今後、イベントを実施できるスペースが整ってくる見込みであり、駐車場や、既存建物がなくなった後の空間も含めて、イベントに活用できるようにしていきたいと考えています。

その際、町がすべてを主催して実施するという形に限定するのではなく、外部からの提案も受けながら進めたい。提案者・事業者等に参画してもらい、

必要に応じて協賛も活用しつつ、さまざまな主体が入りやすい運用にしていきたい。結果として、より多くの人に関われる場として広げていく方針である。

(3) その他の意見交換

【参加者】

芽室町に蓄電池施設ができると聞いたが、詳細を把握しているか。

【副町長】

芽室坂の北側には北海道電力の変電所があり、北電は過去のブラックアウトの影響もあり、自社の発電所以外でも電力を確保できる手段を持ちたい意向があった。その一環として、変電所の建屋内に大型蓄電池を設置する事業者を募集していたようであり、本州資本の事業者が大型蓄電池を設置することになった。仕組みとしては、通常時は北電の系統電力を用いて蓄電池に充電し、北電側の電力需給が逼迫した際に、蓄電池から系統へ放電して供給する、いわゆる系統内で循環する運用を行う計画のようである。目的は、一般家庭に供給される電力の安定性を高め、リスク回避につなげることにありと理解している。

なお、この事業に町は一切関与していない。先日、建設事業者が来て説明があったが、当該蓄電池の電力が直接的に芽室町に供給されるかどうかは別次元の話である。現地は高圧系統が入っているため、例えば十勝管内の系統側で何らかの支障が出た場合に、変電所側から蓄電池の放電で系統を補う、といった運用になるとみられる。

また、これは太陽光発電に付随するものではなく、事業者が北電から電気を購入して蓄電池に充電し、北電の電力が不足した時に北電へ売電する、というビジネスモデルのようである。

【参加者】

②6線道路に農業試験場の柏林があるが、そこに野良生えの木が生えていて、トラックのミラーが引

っかかる時がある。今は除雪車が通っていてだいぶ折れているが、夏場は道路まで出てくるので対応をお願いしたい。

【町長】

確認する。

【参加者】

2線全体に言えることだが、路肩がかなりえぐれていて、繋ぎも穴があいている。コンテナを積んだトラックが丁度そこを通過してコンテナがずれてしまうこともあるので埋めてもらいたい。

【環境土木課参事】

下がっているところは町も把握している。そうならないようにパッチを当てるなど様々な方法で整備しているが、大型車両が走ることによって進行してしまう部分はある。状況を見ながら対応していきたい。

【参加者】

②先ほどの木のところ、ガガイモもひどく、試験場に連絡したらすぐに除草剤をかけて枯らしてくれたが、道路側は試験場の施設ではないため対応できず、雑草が伸びてしまっていた。木も含めて雑草も夏場に対応をお願いしたい。

【参加者】

以前、国で給食無償化の話が出たが、芽室町は地元の食材を活用したい食材の給食が出ていて手厚くしてもらっているの、手出しが増えないようなるべく継続していいものを子ども達に食べてもらえるよう進めてもらいたい。子どもへの投資は未来への投資だと思っているので、家庭の負担を少なくするような政策を進めてほしい。

【教育長】

給食の無償化に関しては国としてもやるという方向で文科省から予算案が出ていて、月5,200円の補助が当初は小学校のみで始まる。芽室町では丸ご

と給食をやっている関係で100万円ほど赤字になるが、それは町で負担し、保護者は完全無償化になる見通しになるだろうと思っている。給食の質も担保した上で、負担軽減を図っていく。

15時00分終了

